

鈴鹿市地産地消推進協議会議事概要

1. 日 時 令和5年1月31日（火）15時～16時

2. 場 所 鈴鹿市役所 12階 1202会議室

3. 出席委員

東京農業大学国際食料情報学部

国際バイオビジネス学科

教授

内山 智裕

株式会社北勢青果商連合

代表取締役社長

大泉 守

鈴鹿市PTA連合会

会長

岡田 篤典

四日市合同青果株式会社

代表取締役社長

小坂 敏

鈴鹿市農業委員会

委員

近藤 啓子

Agri ロマン鈴鹿

会長

豊田 栄美子

鈴鹿市食生活改善推進協議会

副会長

濱口 好子

鈴鹿農業協同組合

常務理事

林 直樹

鈴鹿市生活学校

会長

樋口 よしゑ

鈴鹿市商工会議所飲食部会

議員

森下 晃

鈴鹿市議会産業建設委員会

委員長

山中 智博

4. 出席オブザーバー

三重県四日市農林事務所鈴鹿普及課

副参事兼課長

長谷川 治基

5. 事務局

産業振興部 樋口部長，伊藤次長

農林水産課 北川課長，農政G 岡 GL，田中

子ども育成課 善福課長，管理G 森 GL

教育総務課 伊川課長

6. 傍聴者

なし

7. 配付資料

- ・鈴鹿市地産地消推進協議会事項書
- ・地産地消啓発活動の報告について（資料1）
- ・地産地消～大好き「すずか産」～ポスター受賞作品（資料2）
- ・鈴鹿市地産地消推進計画の概要（資料3）
- ・策定スケジュール（資料4）
- ・鈴鹿市地産地消推進計画

8. 協議会の内容

- ・委員 12 名中 11 名出席 ⇒ 会議成立
- ・会議の公開
- ・議事録署名人の氏名 ⇒ 豊田委員、樋口委員

9. 内容

(1) 地産地消啓発活動の報告について

(事務局)

「鈴鹿市本庁舎外周へののぼり旗の設置」について。毎月第三日曜日とその前日を「みえ地物一番の日」として三重県が設定している。それに合わせ、「みえ地物一番の日」の前日に地産地消推進ののぼり旗を本庁舎外周に設置している。

ロゴマークの入った「のぼり旗の活用」は、イベント等での設置や地産地消関連の飲食店に貸出を行った。活用実績の主なものとしては、女性農業委員の地産地消出前講座、鈴峰地区まちづくり協議会主催の野菜づくり教室、市内の直売所、地産地消に取り組む飲食店、小学校の家庭科の授業で設置していただいた。

鈴鹿市立の小中学校児童・生徒を対象に、地産地消～大好き「すずか産」～ポスターを募集した。応募総数は 123 点であり、審査の結果、小学校低学年の部・高学年の部・中学校の部の 3 部門で、それぞれ鈴鹿市長賞・鈴鹿市議会議長賞・鈴鹿農業協同組合長賞・鈴鹿市漁業協同組合長賞を授与した。ポスターの作成を通じて、児童・生徒だけでなく保護者の方が地産地消への関心と理解を深めるきっかけとなった。

応募いただいた全作品は、令和 4 年 10 月 21 日から 10 月 25 日に、市役所 1 階市民ギャラリーにて展示を行った。

「啓発パネルの展示」は、10 月 29 日、土曜日、30 日、日曜日に開催された、植木まつりにて、啓発パネルを展示した。パネルには、地産地消の説明や地産地消クイズなどを載せ、たくさんの人に地産地消について知ってもらう機会になった。

イオンモール鈴鹿において、鈴鹿のお茶の販売、淹れ方の体験を実施した。また、12 月 18 日、日曜日に鈴鹿サーキットで開催された、シティマラソンでは鈴鹿のお茶のふるまいを行うなど、コロナウイルス感染症の影響で自粛していたイベントも少しずつ実施することができた。

そのほか、ポケットティッシュを作成して、植木まつりをはじめとするイベントで配布を行った。

(内山会長)

のぼり旗の貸出方法は？どのような形で貸出できるのか。

(事務局)

何に使うかを申込書に書いていただく。地産地消に関連することであれば期間を設けて貸し出す。

(山中委員)

子どものポスターについて。123 点とあるが、全ての小中学校に告知しているのか。

告知しているのであればはたして123 点が多いのか少ないのかという問題になってくるが、どうか。

(事務局)

連絡に関しましてはすべての小中学校にした。ご指摘のようにその中の 123 点は決して多い数ではないと認識している。募集は今年で 2 年目。数としては、去年と比べて伸びたものの、周知の方法はもっと方法があるのではないかという認識をしている。

発信の時期によっては環境のポスターや消防などと重なっており選定してもらえないことがある。夏休みの宿題として案内をしたが、選ばれなかったと分析しており、次に向けて修正を行い前に進めていきたい。

(山中委員)

中学校を拝見すると、中学校は全 10 校あるが応募は全て大木中学校。例えば佐佐木信綱記念館の歌の募集もあるが、学校の先生も忙しい。ここで、地産地消の活動を入れていくか、御苦労されていると思う。ポスターの数が多ければ良いというわけではないが、地産地消の趣旨を浸透させていただきたい。食育の活動を通じながら広めていただきたい。

(森下委員)

のぼりの申請書はどこでダウンロードできるのか。

(事務局)

申請書については、ダウンロードできるようになっていない。窓口に来て書いていただく。

(豊田委員)

のぼり旗貸し出しの制度ができたときは、良いと感じ借りに行こうと思った。

小学校の出前講座が入ってきたのでミニのぼり旗を借りたい。子どものテーブルに置くと、子ども達が興味を示す。

(濱口委員)

鈴鹿市で特に高校の食育の推進ができていない。亀山市の高校に毎年お願いしている状態。鈴鹿市の高校で地産地消を推進していきたいところだがその繋がりができない。どのようにやっていけば良いのか。道を作っていただけるのであれば組織として活動ができる。高校生だと今後自分たちで自炊した時に役に立つなどの育成に繋がる。

(事務局)

食育につきましては、色々な場面で発信していくことが重要である。機会を創出するにあたっては事例を調べて進めていきたい。

(近藤委員)

小中学校の給食には鈴鹿産は何%含まれているのか。

(事務局)

学校給食の 2021 年度中学校のデータによると品目ベースでは 37.1%。重量ベースでは 38.7%。2019 年度は品目ベース 41.8%。重量ベース 47.5%。数値が下がっている。小学校給食に関しては調達方法が様々であるため、基本的に公開しているデータは中学校の品目ベース・重量ベースである。

(豊田委員)

今日も味噌づくりをしてきたが、若いお母さんが増えてきた。

若いお母さんから「農業体験が鈴鹿市ではほとんどないですね」と言われた。「農協の果菜彩でやっている農業体験もある。インターネットで調べたら出てくる」と言ったが「四日市や桑名に比べると、やっているところ少ない」と言われた。

Agri ロマンでは、平成 30 年から大豆の栽培を何十年もやり続けて現在も味噌づくりに繋がっている。あやひかりの小麦粉で何かを作るということもやってきた。

芋ほりもないと言われた。自分もやっているだろうと思っていた。

幼稚園や小学校でやっているが全部がやっているわけではない。

農業者も大変なのだろうが、そのようなイベントを起こすことができれば良い。

(近藤委員)

農家にとっても助かるのでは？イベントはぜひ形にしていきたい。

(濱口委員)

私は今長太地区で活動しているが、長太地区のまちづくり協議会が休耕田や雑草地を活用して農業体験できるのではないかな。まちづくり協議会と地域の人々が協働してできないのか。

市からも補助が出ないのか。

(事務局)

まちづくり協議会の補助金もぜひ使っていただきたい。独自の活動も増えてきていると考える。今後も相談があれば案内していきたい。

(2) 次期地産地消推進計画について

(事務局)

鈴鹿市地産地消推進計画は、本市農林水産業の持続的な発展と、豊かで健康的・文化的な市民生活の実現、さらに地域の活性化を実現させるため、平成 24 年 3 月に、議員提案により制定された「すずかの地産地消推進条例」の規定に基づき、定める計画である。

また、「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律」、通称「六次産業化・地産地消法」においても、計画を定めることが規定されている。

令和 2 年に策定した現行計画が、令和 5 年度で終了することから、令和 6 年度からの新たな計画を策定する。

現行計画は6つの施策の柱から作られており、これらをもとに地産地消を推進している。

具体的な取組みとしては、まず1つ目の柱として「消費者ニーズに対応した「すずか産」農林水産物の生産拡大・流通促進」については、各種補助金を活用した担い手確保や新規就農者の育成を図るとともに、農業生産基盤の整備に努めた。また、すずか応援寄附金の返礼品として、鈴鹿の特産物である米や花きなどの農産物も追加されている。

次に、「安全・安心な「すずか産」農林水産物の生産・消費の推進」だが、市内における有機JAS認定事業者は3件、三重県が認証する「人と自然にやさしいみえの安心食材表示制度」の認定者数は42人となっている。これらの認定による取組みだけでなく、緑肥や堆肥を利用するなど、環境に配慮した減農薬、減化学肥料による栽培を行っている農業者は増加してきている。

次に「学校給食における「すずか産」農林水産物の活用促進」だが、積極的に「すずか産」「県内産」を取り入れた献立とし、給食に出されるお米は100%すずか産としている。

その他、季節に応じた「すずか産」農林水産物を使い、献立表に地産地消推進ロゴマークをつけてお知らせをしている。

次に「食育活動・食農教育の推進」だが、関係機関や団体が開催する、すずか産農林水産物を使用した料理教室などの取組を支援した。また、先程も報告したとおり、令和3年度からは、小学生、中学生を対象に「大好きすずか産」をテーマとしたポスターを募集した。

次に「「すずか産」農林水産物の情報提供・地産地消PR」だが、各種SNSを活用した情報発信や、令和3年度に作成した「地産地消推進ロゴマーク」を活用したのぼり旗の掲示などにより啓発活動を実施した。

次に「六次産業化の推進」だが、六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定について、計画策定時には3事業所だったが、令和元年度以降に3事業所が増え、現在は6事業となっている。

次に、数値目標達成率だが、資料は令和4年3月31日現在の数値である。利用権の新規設定面積は、令和5年度の目標の200ヘクタールに対し、令和3年度は326.3ヘクタール、直売所の出荷者数は目標の600人に対し、令和3年度は616人であるなど、当初設定した目標数値は概ね達成している。

次期計画については、現行計画を検証し、課題を把握するとともに、農林水産業を取り巻く社会情勢等を反映させながら、策定していく予定である。

今後のスケジュールについて。本日の地産地消推進協議会のあと、関係機関と連携し計画の素案を検討していく。

概ねの素案が完成したのち、令和5年7月頃に、地産地消推進協議会において、委員の皆様にご意見をお聞かせいただき、内部会議を経て、11月頃にパブリックコメントを実施する。

来年1月に、地産地消推進協議会において、パブリックコメントの内容、対応方針を踏まえた計画最終案について、ご審議いただき、内部会議を経て、令

和6年3月に地産地消推進計画を公表していく予定である。

(内山会長)

ここで、これまで出た意見をまとめる。

1つ目は、対象の拡大という話。小中学校を中心に話していただいたが、高校生でもいいのではないかな。若いお母さんという話もあった。市でできることといえば、小中学校がメインになると思うが確かに高校もある。

2つ目は、範囲の拡大という話。農産物をどのようにアピールしていくか買ってもらえるかという話になっていた。体験などの生産活動に市民が参加していく話も出ていた。

更には地域の活動に落とし込むという話。地産地消の範囲を拡大できるのではないかな。さらに地産地消を充実できるのではないかな。そのことを踏まえて話をする。

(森下委員)

資料3について、目標が明確になっており一つの資料としてはわかりやすい。

食育活動の情報発信について、QRコードをつけて発信できるのではないかな。

(事務局)

最近では発信方法がQRコード付きというのが多くなった。今後に向けては1つの手法として取り入れたい。昨年、YouTubeで農業の身近な情報を発信するという機会があり、QRコード付きのチラシを作った。

(森下委員)

私も、コロナの影響で小麦の食育活動はできていないが。私もPRしていきたいと思う。

(山中委員)

数値目標は行政のみなさんもなかなか難しいと思う。品目ベースの話もあったが、過去に40%超えたこともあるのでもう少し頑張れるのかなと思う。

私は委員長をさせていただいているが、そもそもこの地産地消推進条例は議会が提案して議員が発議してできたもの。本来なら役所が条例を作成する。10年以上経ってもこの議会の関わりがあやふやなところがある。

現在、いろんなニーズが出てきていると感じる。

祖父母から私も小さいころから「地元のものを食べる半径何キロで」と言われてきた。

ここにいる委員は広く活動されている人が多い。自治会や地域の方にもここに来ていただけると情報が広がるため委員の構成に入れていただけると良いかなと思う。委員の構成の部分で、縦のラインをそろえていきたい。

(事務局)

すぐに回答できるものではないが、今後進めていく中でしっかり考えていきたい内容である。

(岡田委員)

今回の計画は学校給食もあるのでPTA連合会が呼ばれているのではないかな

と思う。小中学校は市P連だが、高校は市P連と全く関係ない。高校は三重県になる。ここでは難しいと思う。小中学校で農業がしたいと思うのであれば、鈴鹿市には農業高校がないため四日市か津か伊賀に行くのではないかな。鈴鹿市でも農業にかかわれるものが必要になってくるのではないかなと思う。

地産地消推進計画はどこの市でもやっていると思うが、鈴鹿市の特色って何があるか。「これが全国的にはほかの市と違って鈴鹿市でやっていることです」のような。

実はそういうのがあった方が子ども達には伝えやすい。鈴鹿市の品目を何%使っていくことも大事だが、鈴鹿市では「全国的に見てこんなことをしている」「他の市とは違ってこんなことをしている」というのは、大人にも子どもにも伝えやすい。そのような大きな目玉が次の計画に入ると、より親世代から子どもに伝わっていく、全域に繋がっていくのではないかなと思う。

(事務局)

次期の検討の中で参考にさせていただきたいと思う。

(内山会長)

鈴鹿市の特色は、給食に普通に入れられるものがたくさんあること。

他の市町に行くと例えば、私は関東にいるため、梨しかなく「うちの市は梨だ」となり、それしか言えない。それは印象には残る。ただ、数字で言うとしたことない。そういう市町は多い。

その点、鈴鹿市は、数値目標をやろうと思えばできてしまう。色々なものを作っていることは鈴鹿市の特徴である。逆に悪いところを言えば、「これだ」というものが無い。ただし鈴鹿市の地産地消の売りというのは色々なもので地産地消ができてしまうこと。給食にたくさん入れられるというところは良いと思う。

(近藤委員)

目標 40%ということだが、上げるのは難しいことなのか。

(事務局)

簡単に右肩上がりで 50%. 60%と設定できるものかという点と難しい。

去年の9月までは私会計(学校)だったが公会計(市)になった。市で給食費の徴収を行い、市で食材を調達するという制度が変わった。公会計となれば、当然市役所が入るため公平であったり、公正であったり、透明性が求められる。今の発注スタイルの中でどのような取組が可能かを考えていく。

(樋口委員)

私たち素人はやっぱりわかりやすいのは数値。達成されたこともあると思うが、達成後もそのままの数値で行くのか。

(内山会長)

この数値を見直すのがこの一年間の活動。上げるか下げるかあるいは、別の数値目標を作るのか。

(森下委員)

産物が多いのであれば数値もっと上げられるのでは？

コロナ禍で物価が高騰し、実は地元産を見直せるチャンスかとも思っている。

学校給食のこの 40%は世界を見たらどうなのか。日本的に見たらどうなのかを考えたい。日本の平均が恐らく 40%弱ぐらいだと思う。給食の自給率を上げることが特色になるのかもしれない。

(大泉委員)

学校給食を入れている者から言うと、種類が多い。しかし、量が少ない。使える量が少ない。良いものから悪いものまで品質にばらつきがある。しかし、学校給食は必ず真ん中から上のものを提供している。たくさん取れるが半分しか給食には使えない。子ども達には品質の悪いものは納品できない。上質のものといえ、半分しか使えない。100t 取れれば 50t しか使えない。種類は多い。農協も頑張って作っているが、使える商品が限られている。そのため、41%は私たちにとっては幻のような数値。農協にもたくさんお願いしたが、農協も耕地面積が限られている。これ作りたいと言って新しいものを作ると、良いものが作れない。ある程度の年数と経験が必要。

41%を 50%にしようとする、虫の入ったものを入れないといけない。100%作れば 100%は採れない。農薬を使って消毒をしっかりと作れば良いかもしれないが、子ども達には出せない。農薬を抑えて作ると取れない。良いものをたくさん作らないといけない。

愛知県はキャベツの質が良く畑もいっぱいある。半分捨てても、上質が残る。数値ばかりにこだわると問題がある。

(樋口委員)

甥っ子が白子で海苔を作っている。「有明」がほとんどできなかったみたい。有明が白子の海苔を買いに来る。それだけ鈴鹿の海苔が良いということ。

(小坂委員)

日本の食料の自給率は 40%割って 30%後半の数値になっている。学校給食が日本の消費の 100%ではない。ごく一部の数値になると思う。学校給食に特化するのには私たち市場としてもできない。一般消費者と公平に出していかないといけない。献立 100%のうち日本産は 32%から 33%になっている。そのため、この鈴鹿市の自給率 40%は限界だと思う。自給率をあげるためには日本の農業を変えないといけない。

3か月先の献立の表が市から私のところに届いている。その助言をさせてもらっているが、鈴鹿市産を増やすという栄養士さんの認知度があって献立ができていいのか。三重県では菜花のブランド化、鈴鹿市では JA が勧めている白ネギがブランド化されようとしているが、そこまで認知があるのか。そこまで踏み込んでいかないとこれからの数値も伸びていかない。

(事務局)

物価高騰があるが、お子さんの給食費・地産地消も考えつつ価格も考えつつ調達している。白ネギは 20 年度では 70%調達だったが現在 100%調達のように、十分に調達できている食材もあれば難しい食材もある。子ども達が喜んでいただける献立も意識しつつ行っている。

(3) その他

(山中委員)

大雪の影響も情報として最近あがってきていると思う。共済などの保険をかけて自衛をしないといけないということはわかっていると思うが、今回の大雪は想定外であり、今後の地産地消にも地域の方から影響が出てくるかもしれない。

国や県からの臨時の補助も出てくるかもしれない。

情報共有という話もあったため今後、農業者に何かあった場合、サポートをしていただければと思う。獣害などの被害対策も折を見て進めていただければと思う。

(事務局)

被害状況は国や県と普及センターと連携して、情報共有をしたいと思う。

(内山会長)

コロナの影響もあり、私は久しぶりに鈴鹿に来ることができた。これからは「after コロナ」ではなく「with コロナ」として「地産地消」していかないけないと思う。

国際的にもたくさんの価格が高騰し、このような有事の際こそ、地産地消が大切だと思う。今後、地産地消推進計画を策定するにあたり、それぞれの立場でご意見お考えをお聞かせいただき、今後更に地産地消を推進していける計画が策定できればと考えている。